

令和2年度 第一回 足立区経済活性化会議

会議録要旨

令和2年12月17日（木）
「Cisco Webex Meetings」によるWeb会議

(開催概要)

会 議 名	令和2年度 第一回 足立区経済活性化会議			
開催年月日	令和2年12月17日(木)			
開催場所	「Cisco Webex Meetings」によるWeb会議			
開催時間	午後2時00分から午後4時00分まで			
出欠状況	委員現在数 12名 出席委員数 11名 欠席委員数 1名			
出席委員	池村 恵一	鈴木 誠	古川 拓	阿部 忍
	市川 文子	小早川 真樹	鈴木 又右衛門	瀧野 静江
	丸山 有子	山崎 健	大和 猛	
事務局	<p>(出席職員)</p> <p>吉田産業経済部長、近藤企業経営支援課長、吉尾産業振興課長、 山根足立区勤労福祉サービスセンター事務局長、 松本足立区観光交流協会事務局長</p> <p>(事務局) 産業経済部産業政策課 産業経済協創担当 海老原 管理係 建石</p>			
会議次第	別紙のとおり			
会議に付した議題	<p>1 審議事項</p> <p>(1) 委員紹介および会長・副会長の選任について</p> <p>(2) 地域経済活性化基本計画の中間見直しおよび部会設置と部会員選任について</p> <p>2 報告事項</p> <p>(1) 区内経済状況の基礎情報について</p> <p>(2) 産業経済部の新規事業および今後の展開について</p> <p>3 情報提供</p> <p>(1) 足立区地域経済活性化基本計画の指標について</p>			

(会議録要旨)

海老原産業経済協創担当係長

みなさま、こんにちは。定刻になりましたので、「令和2年度第一回経済活性化会議」を開催させていただきます。オンライン会議となりますが、音声・映像に問題はございませんでしょうか。

このたびは、皆様ご多用のところ本会議にご出席を賜り、深く御礼申し上げます。ありがとうございます。私は事務局を担当しております、産業政策課産業経済協創担当の海老原でございます。よろしく願いいたします。本来なら会長が進行を務めるところでございますが、委員の改選がありましたので、会長が選任されるまで事務局が進行いたします。事前に郵送させていただいた「次第」に沿って進めてまいります。

会議に先立ちまして、何点かご案内をさせていただきます。

まず、本日の会議は公開となっております、傍聴席を会議室内に設けております。

2点目に、情報公開の関係で、庁舎2階にあります区政情報課におきまして、委員のみなさまの名簿・会議録・会議資料を公開させていただくとともに、会議録作成のために、本日の会議を録音させていただきます。ご了承ください。

3点目に、本日は産業経済部の管理職、経済活性化会議事務局職員が同席させていただいております。

4点目に、委員となられる皆様に委嘱状をお渡ししておりますが、オンライン会議の都合により、事前の資料に同封させていただきました。

5点目に、本日の会議はオンライン会議となりますので、所用や接続不良などにより中座となる方がいらっしゃると思いますので、ご退席にあたり特にご挨拶等は不要でございます。本日の会議内容は後日会議録などでお知らせさせていただきますのでそちらをご覧ください。

また、音声は原則ミュートでお願いします。ご発言はミュートを解除してお声がけいただく等、会長から指名がありましたらご発言ください。会議室の方は操作不要です。正面のマイクに向かってお話しください。

次に、本日の委員数を報告いたします。委員定数12名、出席委員11名であり、本日の会議が成立していることを報告いたします。なお、瀬田 章弘様は所用につき本日、ご欠席です。続きまして、吉田産業経済部長よりご挨拶申し上げます。

吉田産業経済部長

皆様、お忙しいところ、本日はありがとうございます。産業経済部長の吉田でございます。今こういった状況で、これから年始にかけてかなりひっ迫した状況で、私共もすごく心配している状況です。けれども、その中、会議で継続的にご議論いただかなくてはならないことがございますので、将来に向けてということで、今回いくつか議題になっております点につきまして、皆様方でこれから一年以上かけてご議論いただきたいと思っております。本日まず顔合わせということで、オンラインではございますけれども、少しまた長いお付き合いになりますので、どうぞよろしく願いいたします。

海老原産業経済協創担当係長

では、今回、新たに経済活性化会議の委員になられた方もいらっしゃいますので、本会議について簡単にご説明させていただきます。経済活性化会議は「足立区経済活性化基本条例」に基づいて設置される区長の附属機関です。附属機関とは区が行政を行う前提として、区内事業者や区民の方の声を反映するとともに、学識経験者の専門的知識や経験の活用を図るために設置されるものです。本会議では足立区の地域経済活性化および産業の振興に関する施策の推進に関連して、様々な議題について皆様からご意見を頂戴したいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、今回、委員の改選がありましたので、委員の皆様簡単な自己紹介をお願いしたいと思います。大変恐れいますが、お一方1分前後を目安に、お名前、ご所属、普段のお仕事のご紹介などお願いできれば幸いです。よろしく願いします。お手元の資料1の名簿の順番でお願いします。なお、本日、瀬田 章弘様はご欠席となっております。

(委員の自己紹介)

海老原産業経済協創担当係長

ありがとうございました。続きまして、足立区の出席管理職を紹介させていただきます。

(区管理職の自己紹介)

海老原産業経済協創担当係長

続きまして、会長の選任を行います。

「足立区経済活性化会議規則」に基づき、会長は学識経験者である委員の中から互選により定めることになっております。

(会長は池村委員)

続きまして、副会長の選任についてです。

(副会長は鈴木誠委員と古川委員)

それでは、本会議の会長をお務めいただきます、流通経済大学の池村委員より、ご挨拶をお願いいたします。

池村委員

流通経済大学の池村と申します。改めてご挨拶させていただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。このたび会長の任をお引き受けすることになりました。力不足、経験の不足というところではございますが、何卒よろしく願いいたします。この経済活性化会議という会議体の活動におきまして、各委員の皆様からご経験に基づく貴重なお考え、ご意見を賜りながら区の行政に資するよう会長の任にあたりたいと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

海老原産業経済協創担当係長

それでは、議事を進行していただく前に、資料を確認させていただきます。

- ① 次第
- ② 「資料1」 委員名簿
- ③ 「資料2」 審議事項資料
- ④ 「資料3」 報告事項資料
- ⑤ 「資料4」 情報提供資料

その他「足立区地域経済活性化基本計画」冊子

以上です。お手元にそろっていないものがございましたら、お声かけください。Webex の画面共有で表示いたします。

では、この後の議事進行を、池村会長にお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

池村委員

本日は担当課より2件の審議事項、2件の報告事項、1件の情報提供がございます。それでは次第に沿って進めてまいりたいと思います。次第の1、審議事項について、(1)は先ほど終了しましたので、審議事項の(2)について吉田部長よりご説明をお願いします。

吉田産業経済部長

それでは、よろしく願いいたします。資料の方、審議事項1ページをご覧ください。平成30年の3月に作成いたしました、足立区地域経済活性化基本計画、こちらの方が令和7年度までの計画となっております。中間点で見直すということになっておりまして、来年がその4年目、中間年になる状況でございます。見直しを行うということで皆様方と議論をしながらこれを見直しして、計画の方の策定を行っていききたいと思っております。「中間見直しの主な内容」というところにあります。非常にコロナの影響で政策の順番に入れ替わりがあったように考えております。例えばデジタル化、こういったことが国も含めて急速に加速するであろうという実情が見られるということ、そしてこういった機会だからこそ、そういったデジタル化も含めて国内、海外への区内産業の成長の機会が逆に開かれるのではないかと、コロナのピンチをチャンスに生かしていくことを考えていかなければいけないということです。こういった視点を踏まえて、この計画の見直しを行っていききたいと思っております。

それから2点目として、農業振興プランが今策定中でほぼできております。足立区地域経済活性化基本計画の中に農業という柱が1つありますが、それは農業振興プランの方に委ねていききたいと思っております。そして、中間年でもアンケートを取ることになっております。区民の方、事業者の方に4月以降そういったアンケートを取りまして、策定していききたいと思っております。

スケジュールにつきましては2番の方を見ていただきますと、まず4月以降アンケートを取りまして下案を何度か経済活性化会議の方で議論いただきまして、そして最終的に11月頃パブリックコメントにかけまして2月以降決定していききたいと考えております。

池村委員

ありがとうございました。ただいま吉田部長よりご説明がありました、足立区地域経済活性化基本

計画の中間見直しについてございます。ご意見、ご質問等ございますか。

吉田産業経済部長

補足で、足立区地域経済活性化基本計画の上位計画にあたる足立区の基本計画がございまして、それが今年度見直し時期になっております。こちらが見直されると影響が出てきます。

足立区地域経済活性化基本計画の中には人口推計が現状としてトップに書かれていますが、人口推計についても、このたび区が見直しております。当時はピークが 2020 年頃ということでしたがピークの部分が 10 年ぐらいいずれれておまして、2030 年頃が人口のピークになってくるという新しい人口推計が出されております。そういったところの大きな構造の変化もございます。

池村委員

補足ありがとうございます。人口のピークが 10 年ぐらいいずれてくる。人口の構造が変わってきていることを踏まえましての中間見直しということでございます。ご質問等ございますか。

私から質問させていただければと思いますが、よろしいでしょうか。中間見直しということで新型コロナウイルス感染症の影響が出てきているということが 1 の (1) に書かれておりますが、その影響で見直す必要が出てくる項目は、見立てだと柱の 1 や経済への影響が一番大きいと思われまますが、この点についていかがでしょうか。

吉田産業経済部長

現状把握ということで西新井青色申告会の大和様のご協力を得まして、西新井青色申告会会員様への 1,500 件程度のアンケート調査と、足立区しんきん協議会の協力をいただいて区内の事業者の皆様の方々の状況を数ヶ月単位で把握している状況でございます。4 月以降に実施するアンケート調査はこういったことを踏まえてコロナの影響を考えていかなければならないと思っております。ただ色々な現場を見ますと確かに影響は出ていますが、一律ではないということが非常に明白になってきているということでございます。例えば国や東京都が感染拡大防止協力金ということで、東京都が年末から年始に 100 万円支給するということが一律に行われており、本当に従業員を抱えて困っていらっしゃるのと非常に差が出ているのではないかとこちらでは今考えておまして、そういったヒアリングやアンケート調査というところから明らかにしていこうと思っております。そういった意味では例えば業態転換とか様々に取り組んでいかれる事業者の方々をどう支援していけばいいか、という所の項目はこれまでなかったが、そういったところも付け加えながら新しい計画にしていきたいと考えています。

池村委員

ご回答ありがとうございます。状況をじっくり見ながら中間見直しを進めていくという事ですね。ありがとうございます。このほかございますか。

古川委員

一つ質問させてください。古川です。第二次あだち都市農業振興プラン、これはどういった内容でしょうか。

吉田産業経済部長

皆さんの方にもお配りしたいと思っております。法改正がいくつかありまして、平成 19 年頃に策定したものを今回改正しました。

吉尾産業振興課長

産業振興課長でございます。生産緑地の 30 年間の期限を 10 年間延長する特定生産緑地制度というものがありました。さらにもうちょっと貸借しやすく、そういった法整備、環境の変化というものがございます。もう一つ大きなものは都市における農地が宅地化されるものという考え方がありましたが、そうではなくて保全するもの、農地としてあるべきもの、災害時の役割などそういったこともあって大きな考え方の転換があります。そういったところで新たなプランを作成したところでございます。経済活性化基本計画、基本計画に沿って施策を整理していきまますが、農業プランも基本計画の柱に沿って整理しております。先ほど言いました農地の保全、なかなか難しいのですが農業ボランティア、担い手のサポート情報の発信など骨子としてまとめて、いずれまた皆様にも共有させていただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

古川委員

ありがとうございました。

池村委員

ありがとうございました。基本計画の柱の方に都市農業の保全について、第二次あだち都市農業振興プランに移行することを検討中ということでございます。他にご質問等ございますか。

では続きまして、審議事項の（２）部会設置と部会員選任についてという件がございますので、こちらも吉田部長からご説明よろしく申し上げます。

吉田産業経済部長

それでは資料２の２ページをご覧ください。今回見直しにあたりまして経済活性化会議の中には部会が設置してございます。第一、第二、第三、第四専門部会ということで、平成３０年３月に見直した時には、この部会で議論いただいたことを最終的にこの活性化会議でかけて参りましたけれども、今回は中間見直しということもあってスピーディーかつ動きやすく、まず下案を作成したいと考えています。この４つの部会に加えて中間見直し専門部会を設置させていただいて、まずは下案を少人数で議論した上で、経済活性化会議の本体のほうに諮っていきたいと思っています。

この中間見直しにあたりまして、いくつかポイントがありますけれども、少し足りないなと思う部分を強化していく部分もございます。（１）のところにもありますけれども、例えば販路拡大とか販売促進はコロナ収束後を見込んで迅速に動いていく必要があります。これまでの地域経済活性化基本計画の方で謳われていなかった、新たなチャレンジの促進ということで、そのあたりのところをもう少し手厚く、デジタル化も含めて記載していきたいというのと、このたびエリアデザインが当時より進行しまして、まちづくりとうまく連動させていきたいということで、アイデア、ご意見をいただける方を５名程度選任いたします。専門部会ということで、お忙しい中、経済活性化会議もありながら中間で何回か議論の場を設けさせていただきたいと思っております。その方達には大変ご足労になりますが、５名程度の人数で専門部会を設置していきたいと考えております。選任に関しては「中間見直しの主なポイント」のこの部分で特にご意見を頂戴したい方をお願いしたいと思っておりますので、区の方から会長と相談させていただいて、この会議終了後、ご指名させていただきたいと考えております。特に「問題点・今後の方針」のところにありますけれども区内従業員の規模４人以下が約６割、９人以下で約８割を占めており、こういったことも１つのキーワードになると思いますので、そういったことを加味して人選させていただきたいと思っております。できましたらお忙しいところ恐縮ですが、選任された方におかれましては、是非お引き受けさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

池村委員

ありがとうございました。（２）部会設置と部会員選任についての案件でございます。ポイントは２点であるかと思えます。専門部会の設置ですが、これまで４つの部会を設置しておりましたが、新たに専門部会で下案を少人数でフレキシブルに柔軟に検討していくという方向で考えているという点。もう１点、その選任について「中間見直しの主なポイント」に沿って選任をしていきたいと、基本計画の中の柱の２というところに該当する話だと思えますが、販路拡大、販売促進、新たなチャレンジの促進、活力あるまちづくり、この柱のポイントに沿って部会員を選任していきたいという方向性についてご審議いただきたいということです。改選になった方もおられますので部会員選任については候補者の選出を行うということでご確認いただければと思います。吉田部長より説明があったように、後日選任結果を通知するというところで手続きが提示されております。ご意見等ございますか。

海老原産業経済協創担当係長

一点補足になりますが、活性化会議の委員の皆様の中から選ばせていただきますので、この中の５名程度の方、ご協力をよろしく申し上げます。

吉田産業経済部長

この部会以外のことですが、この後、パブリックコメントが行われますが、区全体で見直しが入っております。パブリックコメントはホームページなどで公開してご意見をいただきますが、本当に数が１件、２件しか来ないということで、もう少し賛成でも、反対でも、この点についてもう少し書き加えたほうが良い、この点について賛成だという意見でも良いので、たくさんいただいた方が良いのではないかというご意見がございます。この１年の間にその部分の手続きが変わるかもしれません。

また、経済活性化会議で皆さんと議論していくので、ぜひお知り合いの方には、パブリックコメン

トでご意見をあげていただけるような促進活動も行っていただけるとありがたいと考えています。

池村委員

ありがとうございました。パブリックコメントでご意見を求めていくということですので、お知り合いの方がいらっしゃれば、ぜひお願いしますということでございます。私の解釈だとコロナの状況で中間見直しにあたり、販路拡大やチャレンジの促進、活力あるまちづくり、基本計画の中でもコロナの影響でさらに強化する、あるいはサポートしていく必要があるだろうという点に重点を置いて、見直しを図っていくと、その上で人選もこの観点から行っていくという解釈をしております。いかがでしょうか、ご質問等あればよろしく申し上げます。

よろしいでしょうか、そういう方向でご審議いただいたということで、次に進んで参ります。続きまして次第の2報告事項になります。吉田部長よりご説明よろしく申し上げます。

吉田産業経済部長

報告事項の1ページをご覧ください。先ほど申し上げた青色申告会の皆様にご協力いただいて、アンケートの速報値が出ております。まだ集計が全部済んでいませんが、11月30日現在のものご報告でございます。こちらの方が2ページに出ておまして950件ということで集計がございまして、やはり4、5月の影響が非常に高かったということ、3割~5割程度減少したという方が多かったという状況でございます。自粛の影響が非常に大きく影響したのではないかとという速報値でございます。今さらに詳しい分析を行っております。業種別などで分析を行っておりますので、引き続き出た段階で皆様の元にもお届けしたいと思っております。

それから2番目のところでございます。今の求人状況ですが、10月のものがございます。東京都の方は、1.0位になってきております。過去のリーマンなど色々なところで、0.4、0.5位まで落ちたところを見ますと、少し回復の兆しが見られたということで、東京都は1.0位、足立区の方を見ますと0.64位、いちど0.62まで下がっております。けれども9月以降少し回復の兆しが見られます。ただ今の状況がどういう風になっていくか分からないので、引き続き注視していく必要があります。

その前のページの表を見ますと、有効求人の多い所というのは、保安職業となっておりますが、警備関係、建築関係、介護関係、こういったところにはまだまだ人材不足が見られていて、求職活動する方が希望するような事務的な仕事ですとか、そういったところは非常に求人が少ない状況ということが分かると思います。こんな現状でございます。

1ページの3番のところ、景況調査でございます。私ども3ヶ月ごとに専門家のご意見を各管理職も含めて聞いております。流動的で、今景況調査だけでは国内の状況がわからない状況にあります。ご存知の通り、これはアンケートをとりまして今が前期より良かったか、悪かったか、もしくはこの後の四半期が良くなるか、悪くなるか、という予測に基づくものですから、なかなか時代が今のコロナ禍ではこの景況だけでは掴みにくい。新聞によりますと、倒産というよりは廃業が非常に増えている状況です。区内の状況も廃業が増えているのではないかと想定しております。実際の数としてなかなか把握しづらいですので、今後そういったアンケート調査もしくはヒアリング調査を踏まえて実態把握していきたいと思っております。これが区の方で四半期ごとにとっております、景況調査の状況でございます。

それから7ページの方にコロナウイルスの影響ということで出ておりますけれども、働き方についてもかなり変わってきているのかなというところが見られます。そういったことも4月以降の調査で明らかにして、計画等の方に反映していきたいと思っております。なかなか区内で中小企業がテレワークなどといったことが難しいのかなと思っていましたけれども、やはりオンラインを活用した打ち合わせですとか、そういった顧客先とのやりとりについては区内かなり進んでいるようでございます。そういったところも含めて調査して計画の中に反映していきたいと考えております。

続きまして8ページですが、新規事業でございます。今区内の販路拡大支援事業というのを実施しております。こちらの方は平成元年度から勉強会なども重ねまして、令和2年度は販路マッチング事業を実施しております。令和3年度はこれを海外販路拡大支援事業に拡大していく予定でございまして、今その運営をしていただく事業者のプロポーザルを行っております。今年度中に決定する予定です。別紙の方に流れがっております。令和元年度の勉強会、工場見学などを通じて、今回の国内販路マッチング事業に拡大していき、来年度その国内販路拡大支援事業にプラスしまして、海外販路拡大支援事業も着手していきたいと思っております。

吉尾産業振興課長

それから10ページ2番目、あだち30買い物券についてです。区内経済を広く大きくサポートさせていただくということで、来年度あだち30買い物券を実施します。これまではプレミアム商品券

がございますが、30%のプレミアム、これをタイトルに含めまして、幅広くやらせていただきたいというところがございます。購入開始の申し込みは4月から、使用期間は7月から12月まで、両ボーナス期間にかけて幅広く、総販売数15万セットです。さらに今回はデジタル券で区内のデジタル決済を推進していきたいという所、あとコロナ禍で非接触でというところ、紙券に加えて、デジタル券も半分ずつ7万5千セットです。取り扱い店舗数目標2,000店舗で、幅広い業種に対応していきたいと考えております。説明は以上でございます。

近藤企業経営支援課長

続きまして1番の方です。シニアの就労・雇用について、企業経営支援課長近藤が説明いたします。今年度、シニアの経験が豊富で高い技術力を持っている企業のOBの方を中小企業の方と結びつけを行う事業を行っています。ただコロナですので、遅れて事業を開始したところがございます。基本的にはここに書いてある3業種に限って実施させていただいております。マッチングとかそのあたりは無料で行っています。基本的にこの仕事とこの会社というように簡単にいくものではなくて、企業さんの特性や情報の聞き取りを行った上で、こういうことができますよ、というような形で提案を行い、そこに支援をしていくような形です。現在、シニアの方の登録が6名おまして、その中で延べ4件マッチングが進んでおります。内容としましては、企業のホームページやパンフレット作成、また今回コロナだったので雇用調整助成金の申請を行うというものがありました。

課題としましては、時間がかかります。要は会社さんの業務内容とか現状とか、そのあたりを完璧に把握した上でやっていく部分と、逆に今度シニアの方がどういった方が来るというのなかなか見えないところですので、なかなかお時間がかかるというところが今の課題で1つあります。もう1つの課題としましては、例えばITとか事務、退職されて時間が経過しますと今にちょっと追いついていけないところです。若干昔の過去のものに頼っているような形になりますので、その辺はちょっと難しいのかなということになります。技術とか経験を要するような作業的な技術職やそういう部分を積極的に入れていくべきかと考えているところです。私からは以上です。

吉田産業経済部長

池村委員すいません。新規事業のところまでご説明させていただきました。

池村委員

はい、承知いたしました。それでは(1)区内経済状況の基礎情報についてというところで、ご質問、ご意見等ございますか。

吉田産業経済部長

阿部委員お願いいたします。

池村委員

阿部委員、はいお願いいたします。

阿部委員

ご指名ですので、区内経済状況の基礎情報についてということで、区内の中小企業の景況調査結果、このあたりはですね信金の情報を活用してというところで、個別金庫だけではないと思うのですが、私の所の足立成和信用金庫ですと、従来から景況調査にご協力いただいている企業の方がいまして、その割合の何々業が何%くらい、何社くらいというような形で数年お願いさせていただいたところが多かったのですが、昨年から一新しまして、少し今までの統計とは違うものが見えてくるという風に思っています。

コロナ禍になる前に変えましたが、不動産業が非常に少なかったもので、不動産仲介から売買をやっている業者を少し増やしました。結果、肌感覚でお話をしますとこのコロナ禍で自粛の時にエンドユーザーである区民の皆さん、それから他の地方に住まれている方、巣ごもりで自分のスマホで検索をして、このくらいの金利の低い情勢なら持ち家ができてということで、金融機関の方は住宅ローンが相当出ている結果が半期で出ています。金利が低いということもありますけれども、中古の分譲マンションなんかは品不足というお話を聞いています。もう出たなと思ったら、すぐ売れてしまう結果になっているそうです。ただ事業者の皆さんの部分を考えていくと、活況を帯びている業種もあればそうではない飲食業を始め、または旅客業、バスやタクシーやハイヤー、このあたりが相当な打撃を受けているので、このあたりの部分を先ほどちょっと質問しましたが、今後のアンケートの部分でしっかりと把握をして、我々も把握をしたらご報告したい、という風に感じています。以上です。

池村委員

ありがとうございました。先ほど吉田部長からもご説明があった通り、一律に影響があるだけでなく部分的に出ているところがありまして、今お話ししていただいた内容にも関連しますが、影響が大きいところと、実はそうではない所があるというところでお話を伺いました。委員の皆様の各種業種に関連してご発言いただいて良いと思いますので、足立区の経済の状況について共有できればと考えています。いかがでしょうか。

鈴木誠委員

文教大学の鈴木です。問題点と改善していただきたい点が2点ございます。先に改善していただけたらありがたいところを申し上げます。4 ページの完全失業率及び有効求人倍率の推移のところ、右のほうに線種の区別が載っていますが、足立区のハローワーク足立有効求人倍率という所で、上の原数列では7月以降が0.64、0.62、0.63となっております。他方でグラフが水面下になって見えていないので、グラフが見えるようにしていただけたらいいかというところですか。すみません些細なところで恐縮です。

もう1点、質問のほうは5 ページですが、DI 値について、運輸業というところがございます。足元、行き先について10-12月ですけれども、それほど芳しくない、そういう見通しは立っております。一般に新聞等の情報を見ると、運輸業といってもいろいろ区分はされていると思いますが、特にインターネット通販による小口の配送は、相当ニーズがあるというようなことで、新聞報道されております。他方でこちらを見たときには、新聞に載っている情報とはちょっと違う傾向が見られます。この足立区さんの業況判断の元となる運輸業はどういったところが入っているのか、お聞かせいただければありがたいです。

吉田産業経済部長

この運輸業については、平成30年の1月期から始めました。ここがスタートになっておりまして本当に安定しないDI 値が出てしまっています。区内の運輸業の状況を見ますと、例えば専門的な運輸をされている方が結構多いかなと思われまして、専門にこれを運んでいらっしゃるということで非常に安定的でない一端が見られているのかという所、あと、取っているところが少し少ないと思っております。このあたりで非常にばらつきが出てしまいます。これだけ見たのでは実態が掴みづらいと思っております。どなたか情報をお持ちであれば、ご意見を頂戴したいところです。

海老原産業経済協創担当係長

鈴木委員、挙手ありがとうございます。ぜひお願いします。

池村委員

お願いします。

鈴木又右衛門委員

インターネット通販は、全体の物流の20%位といわれておりまして、やはりアマゾンを中心とした、あと楽天、これらは皆さんの身近にあるものと思うのですが、実際の貨物量の80%はBtoBのものが多いです。従いまして、特に足立区の運送会社の場合はネット通販に特化した、小口のラストワンマイルの配送業者は非常に少ないです。そういう面ではBtoBのもの、例えば外食とかそういうものに携わっている輸送量は極めて深刻に落ちたことと、コロナの状況で回復が見込めない2つの要因がありまして、皆さんアマゾンとか頼むとどんどん来て便利と思っていられるかもしれませんが、物量的にはそれほど運輸業としてはプラスにいけないというのが、実情でございます。以上です。

池村委員

ありがとうございました。規模の面から違うということでしょうか。これに関連してこのグラフで1件質問があります。コロナの影響で令和2年の1-3月のあたりから各業種で落差が見え始めていますが、運輸業がその前から落差が見えておりまして、これがコロナの影響プラスその他の影響が合わさって、複合的な要因でこの落差になっているのかという解釈であります。要因として外されているものがあれば、教えていただきたいというところでございます。お願いいたします。

吉田産業経済部長

私共も、そこのところ確信を持って言えないので、鈴木委員に補足していただけると助かるんです

けれども、海外の情勢がもう既に昨年度から影響が出ておりまして、そういったところで物流の流れも非常に変わってきているのかと思います。例えば区内では、砂糖だけ運んでいらっしゃる物流の方など専門の方がいらっしゃいまして、そういったところでの影響が大きいという所と、例えば 10 台保有しているうちの 2 台は全然違う仕事をされているとか、そういったこともありますのでその対象の取引先の影響、国外も含めて、そういったところが昨年度から不安材料として、影響してきているのかと思っております。鈴木委員いかがでしょうか。

鈴木又右衛門委員

この DI 値のばらつきですね、これはちょっと理由がよくわかりませんが、業種によって相当濃淡がありますので、それが最大の理由かと思います。令和 2 年のマイナス 90 とかマイナス 80 とかこれはちょっと極端だと思っています。他の業種に比べて運輸業の場合は、このデータはなかなか説明しにくい、一般的なことで話していますが、このデータはそのまま鵜呑みにはできないと思っています。以上です。

池村委員

ありがとうございます。業種特有の要因が働いている可能性があるのかと、お話をお聞きして思いました。

鈴木誠委員

できれば何社が対象になっているかという、社数があるとありがたいです、少しの会社、例えば 20 社しかないという場合と、200 社ある場合、全然数字の持っている意味が違って来るので、そのパイアスですね、何社を対象にしているかという所が載っているとありがたいです。以上です。

吉田産業経済部長

10 月に運輸業の場合取っていますが、42 社ですので、製造業と比べても 4 分の 1 位しか取れていないです。1 社、2 社が大きい変動を表明しますと全体のパイに影響してしまうというのは、実情としてあるかと思います。

池村委員

ありがとうございました。サンプル数についてご指摘いただいたかと思います。このほか関連することでも良いと思いますし、業種に関連しましてご意見、ご指摘等あれば、よろしく願います。やはりこの状況について、ある程度共有していくことが、今後の経済の政策を検討する上では、ベースになっていきますので、ご意見等ありましたら、よろしく願います。

鈴木誠委員

鈴木です。情報共有というところで、このグラフを見て次のページを見るとちょっと面白いことに気が付いたので申し上げます。例えば別紙 4 の所、建設業を見ますと 5 業種の中で見ると、サービス業と同じようなあたりに位置して、相対的に見るとそんなに悪くないと思うところではありますが、次のページをご覧くださいと倒産動向というのが載っておりまして、今期の 7-9 月を見ますと負債総額が 1 億 1800 万円というところで、全体の 1 億 6800 万円の 8 割位を占めているという事です。規模の数字と DI 値そのものは違いますが、全体感と個別感、この違いというのが別紙 4 と別紙 5 では際立っている、建設業がそんなに悪くないと思っても、倒産している主なところは建設業が足を引っ張っているというのが見ることができます。以上です。

池村委員

ご指摘ありがとうございました。これに関連しても良いと思いますし、いかがでしょうか。1 つ気になったのですが、倒産の件数、これは状況としては、にわかに信じがたい数の少なさを感じますけれども、これはアンケートといいますか、調査が実態を反映していないようなところはありますか。倒産の件数についてお聞かせいただければと思います。

吉田産業経済部長

この間、裁判所の方が倒産に関する手続きを停止していたことで、あがってきていないということがあるのと、足立区に本社を置くようなところの大きな倒産は現状にあまり見られていないというところ。2 つの要素があって、まだあがっておりませんが、この後そういった手続きが進んだりすると、状況は分かりませんが、全国的に言うような倒産状況は区内では見られていないとい

うのが実態ではないかと思えます。

池村委員

ありがとうございました。よく理解いたしました。これに関連していかがでしょうか。

吉田産業経済部長

大和委員いかがでしょうか。

池村委員

お願いいたします。

大和委員

当会の速報値という形で資料が出ておりますけれども、当会の会員は非常に規模が小さいので、従業員がいない方、家賃も払っていない自宅という商売の方も多いのと、例えば不動産貸し付けなどの大きな規模ではなくて、小規模もございますので、その中で影響がなかったという方が全体の3分の1、多少影響があった方が3分の1、かなり影響があった方が3分の1というのがこのアンケートというか会員さんと接触してのイメージということで、部長の話にもありましたように一律ということではなくて、極端に影響を受けている3分の1の方に対する対応が大事な状況という気がいたします。

池村委員

ありがとうございました。こちらも一律に影響があるという状況ではなく、部分的に影響の大きいところは深刻ということで、事態をより把握しなければならないという状況であろうかと思えます。いかがでしょうか、この他はよろしいでしょうか。

それでは(1)区内経済状況基礎情報についてはこれでご了解いただいたということで、次に報告事項の(2)についてですが、新規事業に関して先ほどご説明いただきましたが、これに関してもご意見、ご指摘等ございますか。

この流れで良いのか不安なところがありますが、吉田部長からご指名いただくという形でもご意見共有できればと思いますが、いかがでしょうか。

吉田産業経済部長

今、プロポーザルを実施している中で、古川様にも委員になっていただいておりますので、いつも適格なアドバイスをいただいておりますので、軌道修正しながらやっていきたいと思っております。あと先ほどあだち30買い物券等ありましたけれども、今回、区が実施する中では最大規模ということで30%というプレミアム率は実施したことがなかったという事と、業種についても運輸、タクシー等も加えていこうということで、幅広い方々に参入いただけるかなと思っているのと、デジタルも初めてと言いましたが、小規模事業者の方をできるだけ優遇していこうということで、専用券というのを設けて、専用券と全体で使える券をセットにして実施しようと思っております。皆様、お近くの方も買い求めいただければと思っております。

池村委員

ありがとうございます。古川委員いかがですか。ご意見等ございましたらお願いいたします。

古川委員

新規事業について、新しいタイプの事業者を活性化の要素として取り込み、盛り上げていくということも大事だと思います。今、足立区内がどういう状況になっているかということは把握していませんが、最近の新しい動きとしては、小規模事業者よりもさらに小さい個人の方々もものすごい勢いでビジネスをやり始めている。それが伸びている、というのが肌感覚としてあります。おそらく足立区の中でも若い人を中心に個人でやっているけれども、ちゃんとビジネスになっている、というようなケースが増えてきているかもしれないなど。そういう層に対しても関心を持つような形でやれば、もう少し足立区の活性化の担い手の状況を広く捉えることができるかもしれないと思っています。また新しい担い手を取り込むことが多様性を産み出し、新しい活性化に繋がることになろうかと感じてはいます。新規の事業となると起業したり、法人化をしたりという話に従来はなっていたのですが、最近はまだもう少しハードルが低い形でビジネスに入っている状況がかなり出来上がってきているので、その人たちをどういう風に経済活性化という枠組みの中で捉えていけるか、ということも今回の

見直しの中で検討すべき点の1つではないかなと感じています。

池村委員

ありがとうございました。鈴木委員お願いします。

鈴木又右衛門委員

買い物券について、デジタル券と書いてあるのですが、これは世の中にある PayPay や LINE Pay のようなデジタルなものでしょうか。私の知り合いで世田谷の人がせたがや Pay というのを作って、それによる地域振興券みたいなを使っているという話があって、最初インフラにお金がかかりますが、一回作れば、次回発行するときにコストも低いし、色々な施策がダイレクトで打てます。実際買い物している区民の方に直接、というのもできるし、中国なんか行くと屋台を出しているおじちゃんも QR コードを出して、それでみんなデジタル決済ができるようになっていきますから、小売店の負担は QR コードを発行すればできるような感じがあるので、最初お金がかかるかもしれませんが、そのあたりの施策はいかがでしょうか、ご質問です。以上です。

吉尾産業振興課長

産業振興課長です。デジタル券につきましては、委員ご指摘の通り、既存のスマートフォン決済を私ども検討いたしましたけれども、紙券とデジタル券両方合わせたパッケージとして、今回買い物券としてやるという形になりますと、どうしても既存のスマートフォン決済はシステムとして使えないということがございました。さらにその既存のスマートフォン決済というものもポイントを入れたものが区内の経済で使われる保証がなくて、色々な加盟店で使われてしまいます。区内経済を回すという所だけに使うことができない、という所が確認できましたので、今回はどちらかと言いますとキャッシュレスを区内で取り組んでいないという店舗が多いという課題がございますので、今回このあだち30買い物券のところで試していただいて、次は QR コードのプレートを置くだけでするので、簡単だということを理解していただいて、次にキャッシュレスを推進していくという形で考えていきたいという形でございます。

池村委員

ありがとうございました。段階的にキャッシュレスの方向付けという形で、まずはデジタル券というやり方ということだと思います。先ほど古川委員からご指摘のあった通り、事業者の数をしっかり把握してと、足立区が起業、創業に関してそのサポートをしっかりやっているとアピールをしていくということと、しっかり事業者の数を把握するということも重要だと思います。基本計画の冊子を見ておりますと中に足立区の起業、創業というところを取り上げているところもございまして、この点も重要と感じました。この他関連する事でも良いと思います。いかがでしょうか。

古川委員

数を把握するというよりは、どちらかという新しいタイプの事業者を経済活性化の施策の中に明示的に取り込んでいったらどうかということです。委員の中でしまや出版さん、安心堂の丸山さんなどは、こうした起業とも言えないレベルで事業を行う個人のような人たちと接することも多いのだと思います。従来の観点からは、なかなかこういった施策の中に統計にも現れない個人事業者をどう取り入れていくべきか分かりにくい点があるかと思いますが、こういった見直しの時期に少し検討できないかということを考えています。

池村委員

ありがとうございました。よくわかりました。施策の中に誘導していくという事ですね。ありがとうございました。その他いかがでしょうか。

鈴木誠委員

1 番のシニアの就労、雇用についてという所ですが、他府県で関連するようなことを携わっているのでもっと問題提議といいますか、問題意識を申し上げたいのですが、いわゆるシニアの定年は 60 から延長されているというもののほぼ 60 ちょっと過ぎた位で定年を迎える方が多いと、他方で年金を受給するのが、今後 65 歳になるということになっています。どういうことかというはまだ働くことができる体力を十分にお持ちなのに働く機会が喪失してしまって、でも年金を受給するには 5 年あって、それまでの間に貯蓄を食いつぶしてしまう可能性があるのと、空白の 5 年というには言い過ぎですけども、3 年から 4 年位無職の状態になってしまったら、年間仮に 360 万円だとして、それを 4

年としても一千万円超えてくる位の金が出ていってしまう。老後二千万円必要というところで一千万円食いつぶしたら三千万円必要じゃないかと、そういう話になります。そのために例えばこういう施策の場合だと、能力のある人はこういう風に短期労働にマッチングできますというところになります。働くことができるけれども特殊技能を持っていないという方も、当然にたくさんいらっしゃるわけです。その人たちをどうしていくかというところはやはり公の機関が考えていく必要があるだろうということで他府県の所とやっています。何をやっているかということをご紹介すると、都市部の方が人は多いので、都市部でリタイヤ、セミリタイヤされたシニアの方々を地方の労働力として迎えようじゃないかと、地方に滞在している間は、滞在費も無料にしてあげて、そこで働いてくださった分はデジタル通貨を発行するようにして、域内でしか稼いだ分は使うことはできない、つまりどういうことが言えるかということ、その方がその地域で労働した分に関しては、そこで消費してもらう限りにおいてはある意味タダで過ごすことができる、つまり年金を受給するまでの間、自分のお金をセービングできる、浪費することがないと、そういうようなことをある地方自治体と一緒に考えてやっております。足立区さんの方から毎月人を送ってくださいますとそれは一番理想的でいいと思いますが、足立区さんの施策の中で短期雇用ということで技能のマッチングという事だけではなくて、どちらかと言えば長期的な視野に立って、必要な生活設計の中の一部としてこういったシニアの就労機会を確保するという視点があっていいかと思った次第です。以上です。

池村委員

ありがとうございました、これに関連しましていかがでしょうか。

吉田産業経済部長

非常に参考になるお話で、ありがとうございます。どうしてこういったことを始めたかというのは、人生100年時代と呼ばれていることでもあります。区内で言うと、シルバー人材センターというところがありまして、そこでこれまでそういった高齢者の方たちの働いていただく場所としてきたのですが、あそこは儲ける組織ではないという事と、体を動かして健康で、少し仕事ができたらというような組織だという所と、今平均年齢が75歳位になってきていて、その間の方達を働く場所に繋げるというものがなかなか区の制度として無かったものですから、まずはこれから出てくると思われる高学歴の方々が退職されて、どういった形で、また引き続き能力、スキルを生かしていただけるのかということを考えて、今試行的に始めております。またいろんな形でそういったお話を参考にいただければ、今この形でスタートしていますけれども、発展的な形も考えていけるのではないかなと思っております。

池村委員

ありがとうございました。その他いかがでしょうか。

市川委員

今、色々と話をお伺いして、まずは起業しやすいということが1つの理念として置かれている時にどのようなタイプか先程の古川委員からお話にもあったかと思いますが、学生さんが多い街でもあるところからすると起業、どういう年齢層の方がどういうタイプの起業をしたらいいのかという事、それと足立区の親和性というものがもう少しわかりやすくなっているといいなと一つ思いました。割と大半の会社が規模は小さいけれどもということになると、おそらくコンパクトではあるけれども自分たちで何か始めやすいというのはあるのかと思っております。それがもう少し足立区の色として、つまり大規模な最先端の技術をバンバン出すという方向性にするのか、それよりは自分たちの中で暮らしがしやすくて等身大の起業ができる街にするのか、という色がもう少し見えて、それが実際の数値に反映されるといいなと思っております。

もう1つ、ある種コロナというのはよくも悪くも変化の時期なのかと思った時に、パリでは15分で暮らせる街を謳っているというのを最近拝見しています。つまり高齢者の場合、遠くまで行かないでも毎日足腰が弱くならないように15分位の範囲の中で暮らしていると、健康でしかも住み良い街になるというものを打ち出しております、パリでは、単純に移動するとコロナ感染者数も増えるということでそういうのを打ち上げていますが、公園があったり、買い物ができたり、何か施設や見るものがあったり、仕事しに行ったり、歩いて15分ではいけなくても、自転車15分で行ける範囲だったらどうだろうと、これは単純に暮らしが豊かになるという話だけではなくて、域内の経済が活性化するとか、特定の年齢層、弱い人を置いていかないという経済も暮らしもある程度発展する新しいモデルのような気がします。足立区さんというのはそういう意味で都心のど真ん中にある金融などが軒並み並んでいる場所とは違ってある種暮らしやすさとそれなりに豊かな暮らしが営めるという

ところが特徴としてあると思った時に、何かもう少し踏み込んで、包括的に見たときにコロナを一つの良い変化のチャンスとして、何か踏み込んだスローガンなのか、方向性みたいなものが打ち出せると、単なる起業、創業の促進というのほどここの区も言ったりしているような気がしますので、何かそこが一つの魅力になってチャレンジしてみようかという機運も生まれるかと、勉強不足ながら思った次第です。

池村委員

ありがとうございます。お話聞いておりました、足立区の暮らしの中で起業を掛け合わせると、その起業も最近ではハードルが低くなっていて、若者がこれなら自分もできるかもというようなモデルケースや簡単な選択肢をある程度見せられたら、というところもお話を聞いていて思いついた次第でございます。足立区の暮らしの中での起業とそのやり方というところで、選択肢を提示ということの一つ呼び水になるかと、お話を聞いていて思いました。ありがとうございます。

小早川委員

しまや出版の小早川です。よろしくお願ひします。質問を含めてですが、産業政策課の方の販路マッチング事業を予定されているという所です。先程のシニア人材の就労、雇用についてですが、足立区には以前からマッチングクリエイターがいらっしゃると思います。先ほどのマッチングに対するものと、マッチングクリエイターが、現状販路と施策が異なっているので、それを横断的、トータルのにやる必要性はないかということが一つ気になりました。それぞれ別々に実施するのではなく包括的に行うことでのメリットはないかと感じました。

シニア人材に関してなんですけれども、もうこれは動き始めていることだと思いますが、シニア人材をマッチングしている事業者から非常に手間がかかっている現状を聞きました。本当に一件一件丁寧にやっていたらいいのですが、もうちょっとマスの大きな動きでできないものかと思いました。年間でマッチングする件数が限られると感じました。販路マッチング事業も対象事業者 10 社という事は、非常に限定的な部分があると思います。事業対象者はたくさんいらっしゃると思うので、幅広いマッチング施策の考え方ができないか感じたところです。申し訳ございません。以上です。

近藤企業経営支援課長

企業経営支援課長です。マッチングクリエイターはマッチングという名前を付けて行動しております。確かに販路拡大のマッチングとか色々なマッチングという話になってくると思いますが、基本的にそれを総花的にマッチングクリエイターが話を持っていくということも可能だと思います。ただ専門的になってくると、その後主管課に繋いで移行していくというような形になると思います。基本的には繋ぐという役目が、まずマッチングクリエイターにあります。マッチングクリエイターは中小企業診断士であり、今まで製造業中心で回っていたということもありまして、そのあたりは改めて全産業に回れというような形で動いておりますので、何らかの形で基本的に会社さんのお悩みを聞いて、解決するいわば営業職という形で動いているところです。

シニアの部分で総花的にもうちょっと簡単にという話ですが、あまり簡単にしてしまうと先ほど出ましたシルバー人材センターじゃありませんけれども、入ったけれどすぐやめてしまうような、それではこちらの意図したものと違ってきてしまうところもありますので、今実験的に丁寧にやらせていただいているところがあります。これをどういう風に変えていくというのは、見ていこうと思っているところです。

吉田産業経済部長

今回の販路拡大事業 10 社という所ですが、区としては例えば創業、起業期とか成長期とか段階的に捉えておまして、ここの方たちの次のステージがあります。これは伴走型でやっていきますが、その後は自走してもらいたいということで、販路拡大のノウハウをここで伴走的に覚えてもらったら自分で次のチャレンジをしていただくというようなことで、補助金制度を用意しているということになります。そういった形で区の事業をそれぞれのサポートのレベルに合わせて、トータルのに流していく、区の方ではステップを踏んでいただくという形で捉えています。そのすべてのいろんな事業をご紹介したり、色々な補助金に繋いだり、接していくのがマッチングクリエイターさんなので、マッチングクリエイターさんはすべての事業について勉強されていて、その事業所さんに合ったものをご紹介していく、確かに直接販路を繋いでいくこともされますけれども、やはりそれは回っていらっしゃる範囲の販路になりますので、そういうことよりは制度と制度にうまく繋いでいくというのが、マッチングクリエイターさんかと、私たちとしてはそういう位置づけにしています。

小早川委員

ご説明ありがとうございます。シニア人材事業に関して簡単にしたほうがいいと言っているつもりでは全くありません、誤解があったら申し訳ありません。現時点での事業に関して、大変手間がかかっている状況を事業者さんから聞くことがあったので、ご提案、ご意見でございます。今いろいろいただいたお話は区役所内では明確に区別があるとは思いますが、我々事業者側から見ると僕らに対する支援はどこにあたるの、というのが分かりにくい場合もあると感じます。例えば創業間もないところなのか、老舗なのか、小規模事業者なのか、中小企業者の規模なのか。その規模感に合わせたマッチングというのは何をしてくれるのか、そういったところで、図表などわかりやすく説明をいただけるようなものが存在すると、事業者側もより一層分かりやすい、理解しやすいかと存じます。よろしく申し上げます。

吉田産業経済部長

しまやさんは、まだまだこれからの方を教えていただくポジションだと思っておりますので、そういうポジションでお願いしたいのですが、ただそういう形でも例えば新しく別の部門を創業するとなると、それは色々な形の支援がございますので、ぜひ多くの支援を使っていたきたいと思っております。

池村委員

ありがとうございます。このほかよろしいでしょうか、よろしければ次に進みたいと思います。続きまして次第の3番目でございます。情報提供になります。吉田部長ご説明申し上げます。

吉田産業経済部長

情報提供の1ページをご覧ください。毎年度実績を取って数値化しまして、目標が達成できているかどうか、この目標で今後いけるのかどうか、というものになります。1ページ見ていただきますと、概ね順調に目標数値が達成できているというのが47中25ございますけれども、例えば創業プランコンテストというのがありますが、一定程度目標値を当初立てたものの、この数年申請数が落ち着いているというような状況ですので少し下方修正して、コロナウイルスによってどうしても数値が低下せざるを得ない指標がございますので、そちらが③、④というところで5個ずつございました。それと新目標についても3つほど作らせていただいております。また目標値をすでに達成したものの、②番ですけれども、そちらの方については、達成数値ということで挙げさせていただいております。中間目標の指標を達成したものの9個となっております。以上です。

池村委員

ありがとうございます。基本計画の指標についてです。資料にあります通り、指標の達成度に応じて、その件数が資料で表示されております。それではご質問等ありますでしょうか。

こちらは基本計画の活動指標すべてについて、現状を提示しているということだと思います。コロナの影響で下振れしている指標でございますが、こちらに関しては状況を分析して改めて目標値の変更ということで提示がなされております。特にコロナの影響で目標値の変更という部分でも良いかと思っておりますが、ご質問等よろしく申し上げます。

鈴木誠委員

基本的なところを教えていただきたいのですが、どこでも構わないのですが、最初のところを開けて見て太い黒枠で囲われているところで、令和元年度とございまして、指標の分析と指標の状況というのがございます。令和元年度というのは、年度計算しているのは、お役所の場合、1月1日から12月31日という認識でよろしいでしょうか。それが1点目です。

指標の状況というのは、令和元年度、今走っている令和2年度ではなくて、昨年度についての状況という、そういう理解でよろしいでしょうか。2点教えてください。

吉田産業経済部長

まず年度ですけれども、4月から翌年3月までの扱いになります。

指標の状況でございますけれども、令和元年度を見まして、指標を今回評価させていただき、数値についてもそれに伴って変更があるものについては変更させていただいたということでございます。

鈴木誠委員

ありがとうございます。そういたしますとコロナの影響が出てきたのは、去年の4月から今年の3月までという年度で考えるならば、年を越してからという印象がございます。コロナの影響の下振

れ、または下振れというのが書いてあって、コロナの影響というのが際立っているような今の足下の状況では間違いなくそうなのですが、前年度というところでコロナの影響というのは、最後の四半期の影響だけじゃないかという気がいたします。他方で後ろのほうに参りますと、例えば1番最後のページで活動指標を5大イベントへの来場者数というところを見てみますと、1,253千人というところで概ね順調と、これはもちろん去年の事なのでコロナの影響は無い、コロナの影響というのがどの程度ここに強く反映されているのか、あるいは下振れといった時にこの中にコロナの影響と言い切れる部分はどの程度なのかというのが、ちょっと読みにくいかと、下振れしたのはコロナの影響だけではないという気がしたものですから、そのあたりご確認いただけたらと思って、コメントさせていただきました。

吉田産業経済部長

例えばですが、区の方で3月までに事業ができなかったものとか、例えば創業支援施設についても入居の手続き等が困難だったというものが3月までに発生しまして、そういったものがコロナの影響の下振れ、特に活動指標では事業が1月以降かなり影響が出てしまっていたというところで、下振れにさせていただいているのと、今年度については、それも見込んで全く前半できておりませんので、そこも含めて検討させていただいた結果でございます。

池村委員

ありがとうございました。令和元年度といいますと、今年の3月までという事ですが、その後の状況もある程度踏まえての記述等と理解しております。その他いかがでしょうか、基本計画の中間見直しという所のこういったところを要因に上げて、中間見直しを行っていくポイントを定めたという理解でよろしいでしょうか。

吉田産業経済部長

はい、数値そのものが計画に影響するということだけではないと考えております。数値目標というのは大切ですが、この計画はまだ5年ございます。またその先を見据えていく必要もございます、ですので中期・長期的にも繋がるような計画にしていかなければいけませんので、コロナの影響を受けていたとしても起死回生を狙う時期ですとか、そういうことも含めて、計画のほうは練っていきますので、数値が下がったからそこを何かしなければいけない、またはしなくていいとかそういうことでは無いように、計画の方を立ててまいりたいと思います。

池村委員

ありがとうございました。中間見直しということなので、計画は長期に渡りますから中間でしっかり見直しをして、施策の案、実行、内容含めて改善していくという風に理解しました。このほかいかがでしょうか。

古川委員

この地域経済活性化計画について、区長が趣旨を説明されたビデオを以前見たことがあります、その中で強調されていたのが協創力でした。とても素敵なコンセプトだなという風に考えております。中間見直しをする中で協創力というコンセプトがどういう風に、実際の政策だとか、施策に反映され得るのかという点については、とても関心があります。今区の方はそれをどのように考えていらっしゃるのか、お伺いできればと思っております。

吉田産業経済部長

はい、そもそもの目指すべき姿というのが基本構想、基本計画の見直しがありまして、今まで協働止まりでしたが、協働プラス協創という考え方になりまして、「協創力でつくる 活力にあふれ 進化し続ける ひと・まち 足立」ということになります。その中で、視点が4つありまして、ひと、くらし、まち、行財政、必ずここに落とし込むことになっています。産業の部門のものを基本計画の4つの柱にまず落とし込んで、これは作られていますので、そういったところでは特に協創という観点でいけば、ネットワークですとか、繋がりをどうしていくのか、というところは充分この段階で当初の考え方の中で謳われています。そのあたりについては、作ったときに協創の視点で作っていますので、あまり見直しは要らないかと思えます。ただ、そのネットワークをどういう風に活かしていくか、その先をさらに描いたら良いと今回については思っておりますので、十分に協創力というものは織り込まれていますが、活かし方についてももう一步踏み込んだ書き込みができれば良いと思っておりますので、皆様にご意見を頂戴したいと思っております。

古川委員

ありがとうございます。本当に協創力って素敵な言葉だと前からずっと思っております。今数値では分からない部分があると話が合った中で、やはり協創というのは、なかなか数値に出にくいところですが、それがどんな風実際に成果として出せるのかということは、とても大事なことだと思いますので、質問させていただきました。ありがとうございました。

市川委員

本当に足立区さんいつも素敵だなと思って見えています。関わらせていただいている提案とか審査委員にも参加させていただいて、一辺倒に経済を追求する、それは良いと思いつつ、その場所には住みたくないと思いますが、足立区さんはそこを決して切り離していらっしゃらないというか、経済的に必ずしも豊かではないけれども、という方の存在をちゃんと認識して、ちゃんと議題にあげていらっしゃるところに、私はこういう場所が東京にあるということをごく良いことだと、いつも思っています。先ほどデジタル化も進めるというお話があったと思いますが、これももしかすると市民参加ですとか、協創という時の何を一緒にやりたいか、協創する結果として何を成し遂げるのか、という所で、市民からの意見も合意形成も吸い上げるという時に、デジタル化というのは活用できるのではという風に思います。加古川市さんでは、市民参加合意形成プログラムみたいなものを作っているんですけど、例えば体育館の予約であるとか、取りづらいつという所、割と些末に見えるけれども、スポーツをやっている人にとってはとても大事、そういうような様々な、ある種行政側が提供しているサービスですが、ちょっと不便みたいなことというのは、本当に切実な方でないとなかなか意見を申し上げる人っていないと思いますが、そうだよねと、1人が意見を上げるとそれに賛同する形で、もっとこうあったら良いとかなり建設的な意見がやり取りされているなど、新しい取り組みですが、すごく素敵だなと思って見えています。デジタル化というとまずはコロナ、まずはマスクとかどうしても喫緊性の高いところに目がいきますが、できればそこを固定の1つのサービスに対しての対応策にするのではなくて、プラットフォームにして、まずは自分たちとして優先順位はここにあるよねとか、しかもその人がどういうバックグラウンドの方なのか、ということも理解しながら議論を進めていけると提供するサービスの優先順位をつけやすくなるかなと思いますし、先ほど上がっていたデジタル化という所と紐付けて、もしかしたらやれることがあるのかと思って、お伺いしていました。

池村委員

ありがとうございました。これを受けていかがでしょうか。

吉田産業経済部長

今全庁的にデジタル化、申請も含めて、23区で一番のデジタル都市になりたい位の勢いでがんばっておりますので、事業者の方々も含めて遅れをとらないように、今回、委員の皆さんデジタルで、国や東京都等もオンライン申請なので、そういったことが当然になってくる世の中、意外と足立区進んでいると思われる位まで頑張っていきたいと思っております。ご意見をご議論の中で頂戴したいと思っております。ありがとうございます。

池村委員

ありがとうございました。このほかいかがでしょうか。

丸山委員

足立区って創業、起業にもものすごく力を入れていらっしゃると思います。様々な人たちと繋がりがあつ中で、すごくありがたいという話があるのと同時に、起業するのは良いけれども、起業支援施設のかやきとかあつ中で、次のステップに行ける場所が無いというのが、すごく寂しい。実際に会社が大きくなつていくと、足立区から出て墨田区など他の区に移動していつてしまう方が多いので、そこをなんとかできないのかな、というのは思っていました。以上です。

池村委員

ありがとうございました。よろしいでしょうか。

吉田産業経済部長

今おっしゃっていただいた事は、本当に課題ではありますので、そのあたりも実態としてどうしていけばいいのかということも難しいのですが、私たちが課題と捉えておりますので、金融機関の方々や

宅建協会、不動産協会と連携を取り始めていますので、そういったことも考えていきたいと思います。

近藤企業経営支援課長

企業経営支援課長です。ちょっとずるい話になりますが、創業プランコンテストというのがありまして、そこに昨年からです、信用金庫賞をつけてもらうようにしました。それは何故かといいますと、信用金庫の経営塾がありますので、そこのお仲間入りをしてもらう、そうすると地域の方と繋がりができる、そうしますと外に行かないだろうと、足立成和さんなら足立成和さんが経営を見てくれる等、金融支援をしてくれる。そういった形で区内に縛り付けようじゃないですけども、いわばずるいのですが、そういうことも考えて、一つずつ、一歩ずつですけどもやっているところです。どうぞよろしくお願いいたします。

池村委員

ありがとうございました、教えていただきたいのですが、足立区の創業や起業という点に関して、そういう立ち上げるという方々はいらっしゃいますが、ある程度成長期で安定してくると違う区に移られるという件数って結構多いのでしょうか。

近藤企業経営支援課長

これは創業支援施設から外に出た方のデータでいうと、大体半分ぐらいは出て行ってしまっているということがあります。これは単純に用途地域の関係もありますし、後は家賃の高騰です。皆さん例えば花畑なり竹ノ塚、そういうところに事務所を構えてくれれば構わないのですが、皆さんなぜか千住の方を希望されまして、千住って意外と家賃が高くて大家さんの言い値だと言われていて、なおかつオフィスビルが無いという形になっています。そうしますと秋葉原と同じような値段になってしまう。そうするとそちらに行ってしまう状況ですので、半分ぐらいはいなくなっているというところもあります。実態としてはそうですね。

池村委員

ありがとうございました。ビジネスの内容によって引っ越しすることもあろうかと思いますが、これはこれで逆に生み出す力があるというところで一つ PR になるかと聞いていて思いましたが、やはり足立区の発展を考えますと、留まっていたら、そこで活躍していただくことが良いことであると少し思った次第です。ありがとうございました。

その他関連することでも良いですが、よろしいでしょうか。それでは他にご意見、ご質問等がないようですので、最後になりますが、事務局から何かご連絡等ございますか。

海老原産業経済協創担当係長

池村会長ありがとうございました。本日の会議はこれで終了となります。ありがとうございました。本日いただいたご意見については、今後の施策や計画の見直し等の参考にさせていただきます。なお、次回は来年度になる場合もございますので、早い段階で開催可否をご連絡させていただきます。

本日の委員報酬については口座振込みとなります。本日から3週間前後に振込まれる予定です。

それでは、これもちまして、足立区経済活性化会議を閉会いたします。本日はお忙しいところ長時間にわたり、ありがとうございました。右下の赤い×ボタンでご退席ください。

以上